



# アート空間をまちなかに創造する！ ～アートがまちを元気にする～

中之条町 観光商工課

中之条町は新潟県と長野県に接する県境の町。人口約17,000人の小さな町で、観光の大きな柱は四万温泉をはじめとした町内に点在する温泉資源です。近年、この温泉資源とならび、沢山の観光客を集めているのが、アートイベント「中之条ビエンナーレ」です。「ビエンナーレ」とは、イタリア語で「2年に1度」という意味で、その意味通り2年に1度開催される、町全体を舞台にしたアートイベントです。

第1回目が開催された2007年から前回2013年までに4回開催され、2013年の開催では、1ヶ月間の会期中に約34万人の方が来場されました。近年では、様々な都市でアートを活用したイベントやまちづくりが行われていますが、多くのお客様が「中之条ビエンナーレ」を選び、都心から遠く離れたこの地を訪れる理由はどこにあるのでしょうか。



■商店街のシャッターに絵を描くアーティスト

この「中之条ビエンナーレ」は、国内外から100名以上のアーティストが集結し、自らが気に入った場所で作品を展示します。町の中心部に位置する交流施設「ふるさと交流センター つむじ」など現在使われている施設にも展示を行います。一方で古い木造校舎や酒蔵の跡地、商店街の空き店舗など今は使用されなくなった施設や場所にも焦点をあててアート作品を展示しています。アーティストが中之条町を訪れ、作品制作の過程で町の歴史を知ったり、町の人と交流したりすることで、様々な化学反応が生まれています。

地元住民にとってこの2年に1度のお祭りは、スタッフとして運営に参画したり、会場の受付係としてボランティアに参加したりと、アートを通して自分の町の魅力を再発見し、

アーティストやお客様との交流を通して人との交流を築く機会にも繋がっています。

場所自体がもつ歴史とアーティストの感性とが融合することで、町の中で光を浴びなくなった場所をもう一度蘇らせ、「もともとあるもの」、「地域の中で埋もれてしまいそうな資源」にアーティストの目線を通して再構築するということを実現しています。それは素晴らしい作品を生み出す場となり、訪れる人にとっては、アートを通してその町の歴史や人々の営みを体感することができる場ともなっているのです。そしてそれこそが、多くのお客様を惹きつけ、遠くでも行ってみたいアートイベントになり得た理由であると考えます。

今年、第5回目となる「中之条ビエンナーレ2015」が開催されます(9月12日～10月12日開催)。秋の開催に向けて、今はアーティストも住民も待ち遠しく思う日々です。



■かつての呉服店をリノベーションしたショップ



■会場の受付をする住民ボランティア